

月刊 サンエスウォッチング Vol.26

サンエスウォッチ ～自転車の街、御徒町から～

東京駅から山手線で上野方面に3駅目「御徒町(おかちまち)」の周辺は、台東区・千代田区・文京区の3区境に位置し、古くは玄関駅の上野や貨物駅の秋葉原そして市場などもあって利便性の高い庶民の町、つまり運搬や移動の手段としての道具が必要な町であり、かつて自転車関連のメーカー、問屋や卸など大小100を超える会社がひしめく自転車産業の町でもありました。しかし今現在、特に山手線内側エリアでは小売店舗を除くと片手でも数えられるほんの数件を残すのみ。そんな御徒町の錬成(れんせい)通り沿いで東京サンエスは、メーカーや外部の工場と協力し、今も仕事を続けております。今回は、業務のほとんどを行っている東京サンエス本社内部を少しご紹介いたします。



社屋は、1969年に改築された5階建旧館と増築した6階建の新館からなります。



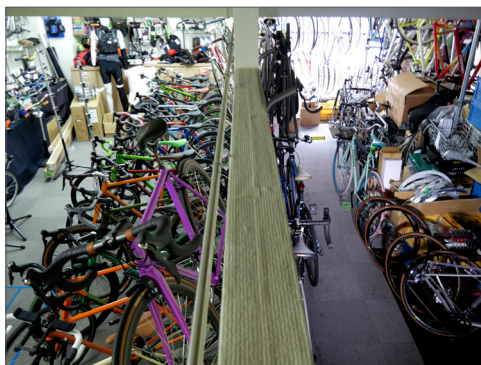
旧1F▶ 東京の真ん中という立地であるが故に、無駄なスペースはありません。高さのある1階には中2階を作り、荷物の上下移動用吹き抜けやリフトが設置されています。空間を最大限活用しようという先人の工夫が今でも活かされ続けています。



新1F▶ 社名が「サンエス自転車株式会社」であった昭和30年代から使われている木製引き出し。出来る限りいいものは愛着を持って使い続けるようにしており、日々、継続の有り難さを感じさせてくれる存在感があります。発送作業はこちらで行われています。



旧2F▶ 社屋内に約3000種の商品を流通させる心臓部があることで、細かな対応も可能にしています。



旧4F▶ 左と右にショールームと作業場があり、開発製品のテストなども行います。社員達の通勤自転車も並んでいます。新館側には事務所があります。



新屋上▶ 約50m先の高架橋、山手線・京浜東北線・上野東京ラインが走ります。全国津々浦々につながっている動脈が御徒町を通過します。

VIVA

～自転車万歳！！～ (連載コラム：全12回)

【第10回】

人気のロングセラー商品「バックループ」。

30年以上の時を経て今年5月にアップデートを実現しました。ステンレスボルトの頭をプラスから4mmアーレンキーの六角に変更するとともに、プレートをループ間に挟ませ、固定力を高めています。昨今、小物の生産も国内では益々厳しくなってきた中で、日本の工場一つ一つ手作りで製作される貴重な商品です。



「バックループ」はサドルバッグ吊り金具として「クイックエンドアダプター」(Vo.20参照)とともに、現代ニーズにも応えるニッチ商品です。

